

口語詩句総評12月

口語詩句の募集は、口語の表現で詩性のあるものという条件だったと思う。毎月続けていくうちに、みなさんの詩句になんとか詩のリズムが出てきたようだ。メロディがあるものもあってときめいたり。ひらめきが光るものもある。歌謡曲になっても申し分ないなど感じられる詩も多くなってきた。

今月の気になった作品は以下。

「井」の中の点が僕としましょう ——合川秋穂（京都府）

手品師の帽子を出す直前、
鳩は死について考える ——隣嗣いとり（愛知県）

月面にスターバックス1号店
オープン初日は満月らしい ——宇井麻千（大阪府）

八百万いるはずなのに神様は
今年も待ち人連れてこない ——縫目（岐阜県）

捨てる神あれば拾う神あり

神様わたしを拾って下さい ——加藤美紀（愛知県）

くちびるのたてじわを

ぬうようにして
きみのぜんぶをつつんでさらう　——白野（新潟県）

よくわからないせかいに
新しいわからないが来て
へんかしている、らしい　——那由（千葉県）

張りつめた
歩道橋の
階段下の自転車
いつ放置されたのか
街に愛されていた　——令一（熊本県）

腐らない桃があったら捨てなさい　——長谷川柊香（宮城県）